



平成20年10月24日

各 位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス
(コード番号8889 大証ヘラクレス)
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩 次
本社所在地 東京都中央区京橋一丁目1番5号
問 合 せ 先 常務取締役 石川 雅 浩
T E L 03-3231-8020

当社子会社の特別損失の発生及び平成20年9月期通期(連結・個別)業績予想の修正
に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社システムソフト(JASDAQ・コード 7527)が、平成20年5月2日付「平成20年9月期中間決算短信」において発表いたしました平成20年9月期通期の業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

以 上

<別添資料>

株式会社システムソフトの開示資料

「特別損失の発生及び平成20年9月期通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」

平成 20 年 10 月 24 日

各 位

会 社 名 株式会社システムソフト
 代表者名 代表取締役社長 吉尾 春 樹
 (JASDAQ・コード 7527)
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 緒 方 友 一
 TEL 092-714-6236

特別損失の発生及び平成 20 年 9 月期通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 10 月 24 日開催の取締役会において特別損失を計上することを決議いたしましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 5 月 2 日付当社「平成 20 年 9 月期中間決算短信」において発表いたしました平成 20 年 9 月期通期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生

当社は当中間期において、子会社 株式会社リビングファーストの財政状態及び回収可能性等を勘案して投資損失引当金を計上することとし、投資損失引当金繰入額 511 百万円を特別損失に計上いたしました。しかしながら、不動産情報ポータルサイトの運営を主な事業とする同社を取り巻く市況はかつてないほどに厳しさを増しており、早期回復は難しいと予想されることから、当事業年度末において 408 百万円の投資損失引当金繰入額を追加計上することといたしました。また、併せて、同社に対する貸付金に対して貸倒引当金を計上し、貸倒引当金繰入額 150 百万円を特別損失に計上することといたしました。

なお、この特別損失計上による連結業績への影響はありません。

2. 平成 20 年 9 月期通期業績予想の修正（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

(1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,060	110	110	△358
今回修正予想 (B)	1,770	25	30	△409
増減額 (B-A)	△290	△85	△80	△51
増減率 (%)	△14.1	△77.3	△72.7	—
(ご参考) 前期実績	1,800	△625	△612	△1,975

(2) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,860	280	280	△241
今回修正予想 (B)	1,645	237	245	△829
増減額 (B-A)	△215	△43	△35	△588
増減率 (%)	△11.6	△15.4	△12.5	—
(ご参考) 前期実績	1,673	△354	△335	△1,698

3. 修正の理由

当連結会計年度におきましては、米国のサブプライムローン問題に端を発する世界的な金融市場の混乱により不動産関連事業の落ち込みが一段と鮮明になり、当社グループの中核事業であるシステム開発事業と不動産ポータル事業に大きな影響を及ぼしました。

システム開発事業におきましては、前連結会計年度に引き続き親会社 株式会社アパマンショップホールディングスのグループ全体に係る不動産システムの開発運用に参画しておりますが、当連結会計年度中に基幹システムの開発を終えてサブシステムの開発に移り、開発規模は縮小する方向にあります。グループ以外の旧来のお客様につきましても、景況の悪化を反映して IT 投資への姿勢は総じて慎重になっております。

不動産ポータル事業におきましては、サブプライムローン問題から派生した金融収縮や建築基準法改正による確認申請の厳格化が、顧客である不動産関連企業に深刻な影響を与えました。特に期間の後半において企業の倒産・民事再生が立て続けに発生し不動産業界全般の事業が低迷したことにより、広告収入は見込みを大きく下回りました。

また、個別業績におきまして、子会社について将来の業績への影響を保守的に勘案し、1. でご説明しましたとおり特別損失を計上することといたしました。

以上の結果、連結業績は売上高 1,770 百万円、営業利益 25 百万円、経常利益 30 百万円、当期純利益△409 百万円となる見込みであります。また、個別業績は売上高 1,645 百万円、営業利益 237 百万円、経常利益 245 百万円、当期純利益△829 百万円となる見込みであります。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上